ほっとタイム

編集委員退任にあたって

早いもので，前編集長の中島秀之先生（はこだて未来大学学長）からの委嘱で編集委員を務めさせていただくことになり，2 期 4 年が経った．中島先生とはそれまで，総務省のUbilaというプロジェクトで，ユビキタス・コンピューティングの未来ビジョンを描いたり，科学技術振興機構の取り組みで科学技術の未来シナリオを策定したり，と，技術そのものではなく，人間や社会と技術のかかわりという側面でご一緒させていただいた経緯があった．だから，「どうしてまた，編集委員にご指名いただいたのですか？」というやりとりを特にしたわけでもないのだけれど，「理系というよりは文系，理論というよりは実践」という期待でここにいるのだろう，と勝手に解釈し，いくつかの特集を組ませていただいた．

特に思い出深いのは，（株）アカデミック・リソース・ガイドの岡本真さんをゲストエディタにお迎えした 2 つの特集だった．「電子書籍の未来」（53-12 号，2012 年）と「次世代ライブラリ」（55-5 号，2014 年）がそれである．「電子書籍の未来」では，当時，楽天がカナダの Kobo 社を買収して，本格的に電子書籍に参入することを表明するなど，電子書籍分野がにわかに活気づいた時期だった．担当編集委員としては，電子書籍マーケットが急拡大していく「尻馬」に乗ることができるかもしれない，という，ちょっとした助平心もあって組んだ企画だったのだが，岡本さんに選定いただいた著者たちは，皆，骨太の方ばかり．電子書籍ブームに批判的かつきわめて生産的な，この分野への愛にあふれた方々で，私の浅はかな期待を大きく凌駕する構成に結実した．電子書籍マーケットの世界動向の俯瞰，電子書籍振興に関する政策，出版社の動きと今後の展望，電子書籍フォーマットの展開，電子書籍の保存に関する制度や機関の動きなど，実に幅広い視点から電子書籍に迫り，電子書籍の可能性と制約について奥行きの深い議論を提供できたのではないかと思う．そしてその約 1 年半後，「続編」としての意味も込めて，岡本さんに再登板いただき，「次世代ライブラリ」の特集を組んだ．2012 年当時，大いに盛り上がっていた電子書籍分野も，この頃になるとすっかり落ち着いた状況で，特集の構成を練っていく段階でも，「書籍の電子化」そのものはもはや扱うべきトピックから外れ，むしろ現存する紙媒体としての書籍へのアクセシビリティなど，莫大な知の資源としての書籍をオープンデータ化の対象としてどのように扱っていくか，ということが議論の中心となった．書籍のディジタル化というテーマが，技術的な対象から社会・文化の対象へと移行するダイナミクスを扱うことができた，という点で，この特集では，『情報処理』という雑誌の懐の深さを表現できたのではないかと自負している．

そしてまた，この 2 つの特集に担当編集委員としてかかわったことで，技術が成熟し，文化になっていく過程を記録し，表現する機会に恵まれたことは，自称「文系工学研究者」にとって，かけがえのない財産になった．技術の社会的意味や価値を，借りてきた言葉で表現することは簡単だが，自らがその証人として自分の言葉で表現することなど，そうはないからである．編集委員を務めたことで，最新の技術トレンドに触れることができただけでなく，こうやって自らのアイデンティティを振り返り，再構築できたことは，ある意味，想定外の成果だったように思う．

この 4 年間，編集長として大いなる機会と有益な示唆をくださった，中島秀之先生，塚本昌彦先生．進行が常に遅れ遅れで，締切を過ぎることも多々あった中でも，辛抱強く手綱さばきをしてくださった情報処理学会事務局の皆様．そして担当した各特集で，創造性と専門的知見の両面をフルに発揮し，素晴らしい誌面構成と原稿執筆を頂戴した，ゲストエディタの皆様，著者の皆様，本当にありがとうございました．求められている期待に十分応えることができたかは，甚だ不安で，後ろ髪引かれる気持ちもありますが．まずはここで，4 年間の感謝の気持ちをお伝えいたします．

（田村　大／（株）リ・パブリック）

会員サービスのご案内

会員の皆様に特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします（本会 Web ページ：https://www.ipsj.or.jp/member/other/yutai.html 参照）．会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門（E-mail:mem@ipsj.or.jp）までお寄せください．

◆ ホテル（5 ～ 53％割引）
JR ホテルグループ，グランビスタホテル＆リゾーツ，ダイワロイヤルホテルズ，東急ホテルズ，阪急阪神第一ホテルグループ，ホテル法華クラブ，プリンスホテル，都ホテルズ＆リゾーツ，FUJIYAMA 倶楽部，ウィクリーマンション東京
◆ レンタカー（最大 55％割引）
ニッポンレンタカー，日産レンタカー，タイムズカーレンタル
◆ パック旅行（3 ～ 5％割引）
日本旅行，近畿日本ツーリスト，トップツアー，京王観光
◆ UC 丸善アカデミックカード（10％割引）
◆ バーシティウェーブ　コンピュータソフト（教育機関所属の方はアカデミック価格で）

ほっとタイム

編集委員退任にあたって

４年前に編集委員を頼まれたときは，それまで特集のゲストエディタや解説記事を執筆した経験もあり気軽に引き受けました．しかし，実際に編集委員会に来てみると何十人の人たちが編集にかかわっていることを知り，大変な役を引き受けてしまったと少し気後れしてしまいました．

私が就任したときの中島編集長は，著名人を巻頭言にしたり，ビブリオトークを企画したり，委員長自らさまざまなアイディアを出し，実行していました．その巻頭コラムは，とにかく会誌を手にとって開いてもらうために分野を問わず有名人に書いてもらいたいという方針でした．編集委員がおのおのの知り合いの著名人を挙げていて，みなさんの人脈の広さにただただ驚いていたと同時に，自分の人脈のなさに本当にこんな私が編集委員でいいのかと自己嫌悪に陥ってしまいました．

中島編集長の特集企画の方針は，自分の研究分野の宣伝にしてほしい，そして普段会えない先生を知るきっかけ作りになる企画をすればよいということでした．それを聞いて，なるほどそれなら私でも何かできそうと就任２年目にしてようやく企画を提案できたのです．私の専門分野はセキュリティ工学．就任前にもセキュリティ要求工学のゲストエディタとして特集を企画していたこともあり，同じ内容の企画を編集委員会に持っていくわけに行きません．そこで，それならちょうどこれから新しく研究したいと思っていた分野の特集を企画．まだ知り合っていないその分野の著名な人たちと知り合うきっかけづくりにしようと思い立ちました．その企画は，プライバシー工学．プライバシー権は市民が持つ人権の１つでもあり，法律や社会学的観点も重要になってきます．しかし，ソフトウェアの研究をしていてなかなかその分野の研究者と知り合うチャンスがありません．そこで，特集の企画ですからといって，プライバシーの法学的観点で権威の名誉教授に寄稿を直接交渉し，（無理やりですが）知り合うことができました．さらに，その特集の出版に合わせて，セキュリティのシンポジウムにてパネルディスカッションを企画し，特集を書いていただいた研究者たちと直接お話しさせていただきました．むろん，これがその後の自分の研究に大きな影響を与えてくれました．ここまでやると，会誌を私的に利用していると言われそうですが，今や世界的にもホットなプライバシー研究の日本での啓蒙活動に少しでも貢献できたということで自分を納得させています．

中島編集長から塚本編集長になって会議の雰囲気がガラッと変わったのを覚えています．無論，これまでどおり活発な議論があるのには変わりがないのですが，そんな観点もあるのかと思うことが多くなりました．塚本編集長の推薦もあって女性委員が一気に増えたからです．やはり女性の数がある割合を超えると意見の多様性が一気に出てくるものだと実感しました．

塚本編集長は，とにかく面白い記事，新潮やニュートンのように誰でも読める記事を目指していました．付録や漫画，時事ネタなど塚本編集長もいろいろなアイディアを熱く語るのが印象深かったです．このときもみなさんいろいろな時事ネタを出されているのに対してアンテナの広さにびっくりしたと同時に，私自身はあまり時事ネタが思いつかずアンテナの低さにも自己嫌悪．思いつく時事ネタは（自分の専門ということもあり）セキュリティインシデントばかり．暗い話題ではなく，楽しくなる話題を提供できないかと，あまり関心がなかったニュースも見るようになりました．

特集の企画以外では，さまざまな人との出会いがありました．実際に新しく知り合った編集委員に，（他学会ではありますが，）講演を依頼をするなど編集委員のネットワークを活用させていただきました．

最後に，この４年間編集委員をやって，会誌を作る苦労と（いまさらながら）内容の面白さに気が付き，会誌を読む目が変わってきました．自分の専門と異なる分野の特集でも読むようになり，視野が格段に広がったような気がしています．今後もさまざまな分野の面白い記事を楽しみにしています．

（吉岡信和／国立情報学研究所）

編集委員退任にあたって

会誌「情報処理」の編集委員会にて，アプリケーションワーキンググループ（AWG）の委員として 4 年間活動させていただきました．いつも興味のあるところをつまみ食いでしか読まない会誌ですが，裏方に入ってみると，良い誌面を作ろうと多くの方がかかわり努力されていたことを知り，少し申し訳ない気分になりました．委員になるまでは知らなかったのですが，記事は大体このように作られます：(1) ワーキンググループ（以下，WG）にて記事企画案が持ち上がる（企画案は WG でのブレストから出るものもあれば，委員や関連研究会から提案されるものもあります），(2) 担当できそうな WG 委員が企画書を作成する，(3) 並行して著者候補に打診して内諾をいただく，(4) WG にて議論し企画を再度練った上で本会議に提案する，(5) 本会議にて承諾を得る，(6) 著者に執筆依頼をする，(7) 著者から初稿が送られてくる，(8) WG 委員が閲読をし，それをもとに著者が修正稿を作成する，(9) 閲読→修正→閲読→修正というやりとりを数回行う，(10) 最終稿を学会に提出，(11) 学会事務局が校正して著者に送る，(12) 著者が最終確認をする，(13) 学会事務局が完成原稿を印刷所へ送る，(14) 無事出版！…ずいぶんと長い道のりです．しかしこういった手続きを経ることで，自分の専門に限らず広い分野の最先端のトピックを手軽に知ることができる雑誌になっています．

さて，中の人の仕事をつらつらと書いたのは，なにも自分たちの苦労を知ってもらいたいからではありません（ちょっとありますが）．作り手の努力なんてそもそも受け手が気にする必要はありません．しかし会誌「情報処理」は情報処理学会会員の手によって作られている雑誌であり，読者の多くが該当するであろう情報処理学会会員は，単なる受け手ではないはずです．受動的な情報消費者にとどまらず，能動的な情報発信者としてどんどんかかわっていくのが会誌として健全な姿だと思います．もちろんすでに読者アンケート等でたくさんのフィードバックはいただいていますが（ありがとうございます！），会員数を思えばもっとあって良いと思います．それだけでなく，記事ができあがるまでのプロセスは先述の通りですので，(1) のところに自分の企画案を投げ込むなんてこともできると思います（もちろん，それが受理されるかどうかは別ですが．そこは論文と同じですよね）．私も一読者に戻りますが，そんな能動的な読者としてかかわっていきたいと思います．4 年間ありがとうございました．これからもよろしくお願いします．

（濱崎雅弘／産業技術総合研究所）

編集委員退任にあたって

私は 4 年間 FWG（基礎理論・技術分野ワーキンググループ）の編集委員を務めさせていただきました．特に 2013 年度は FWG の幹事を，2014 年度は同主査を務めさせていただきました．お世話になった方々にはこの場をお借りして，感謝を申し上げます．

私が情報処理学会誌を初めて読んだのは，連載「プログラミング・プロムナード」を読むためでした．当時所属していた研究室には会誌が置いてはなかった（と記憶している）ので，会誌の置いてあった（古くは和田研フォントで，今では GPS 将棋で有名な）田中哲朗先生の研究室にお邪魔した際に読ませていただいていました．FWG 委員を現編集委員の松崎先生に打診されたときは，このような面白い連載があった会誌に貢献できる機会を得てうれしいと思うと同時に，このような面白い連載のある会誌に自分が本当に貢献できるかどうか不安になった記憶があります．

私の最初の担当記事は，2014 年 5 月号に掲載された，アフェルト・レナルド氏による「《解説》定理証明支援系に基づく形式検証―近年の実例の紹介と Coq 入門」でした．自分の担当記事が会誌に掲載されるのは―特に初めての場合はなおさら―嬉しいことです．「『情報処理』にはこんな記事も載っているんだ！」と宣伝してまわりたくなりました（その当時は自慢しているように感じられて気恥ずかしく，結局しませんでした．今となっては宣伝するべきだったと思います）．その後，アフェルト氏が Coq についての講演をなさったことがあったのですが，その際に本記事を参考文献として挙げてくださり，本当に嬉しく感じられました．こうした感動は編集委員をしてなければ味わえなかったでしょう．

FWG を通して，普段かかわれないよう方々と接することができたのも編集委員をやっていてよかったと思った点の 1 つでした．他大学の他分野の先生や，企業の研究部門で仕事をなさっている方々から，記事提案やその前段階としてのトピックの提案の形でさまざまな分野での話題について聞けたのは大変刺激になりました．

今の会誌編集委員会はとても雰囲気がよいと感じます．編集長，編集委員，事務局の皆がよい学会誌を作ろうとしているように私は感じます．この「よさ」が外から見えないことは，少し残念ではあります．

最後にもう一度，お世話になった方々に感謝申し上げます．ありがとうございました．FWG 委員として自分がどこまで会誌に貢献できたかは分かりませんが，また何らかの形で会誌に貢献できる機会があればと思います．

（松田一孝／東北大学）

ほっとタイム

編集委員退任にあたって

2011年4月に会誌編集委員会ワーキンググループの委員をお引き受けしてから，4年が経ちました．最初の2年間はコミュニケーション分野ワーキンググループ（CWG）の委員を務めさせていただきました．CWGは，情報通信分野の特集や解説記事を企画し，記事化を進めます．私の専門分野がデータ処理であることもあり，私のCWGの委員としての貢献度は高くありませんでした．そのため，3年目にワーキンググループの再編があった際に，お役御免となるかと思っていたのですが，予想に反して3年目は異動先の会員サービス分野ワーキンググループ（MWG）の幹事，4年目は主査を務めさせていただくことになりました．いろいろとありましたが，なんとか無事に任期を終えることができ，ほっとしています．

MWGは，読者からの声を掲載する会員の広場，読者からの会議報告，書評，特集のエディタが執筆する編集室の校正などを担当しています．会員の広場には，毎月さまざまなご意見が寄せられます．お褒めの言葉をいただくこともありますが，厳しい言葉をいただくことの方が多かったように思います．いただいたご意見は，特集や記事の担当者はもちろん編集委員会でも真摯に受け止め，本会議でもどのようにしていけばより読みやすく，かつ読者のためになるかを考え続けています．これからも積極的なご意見を賜りたく，よろしくお願い申し上げます．

MWGは他のワーキンググループとは異なり前記の校正作業が主業務であり，これまでは特集記事を企画することはありませんでした．しかしながら，前主査からの引き継ぎ事項でもあり，2015年4月号で初めて特集を組みました．この特集では，新しく本分野に飛び込む方々へ向けて，さまざまな分野で活躍されている先輩方からのアドバイスをまとめました．計23名もの方々に執筆をお願いすることになったため，執筆者，事務局はもちろん，通常の業務と並行して，特集記事の編集を進めるMWGの担当者にも大きなご苦労をおかけしましたが，面白い記事になったと自画自賛しています．

編集委員となるまでは，会誌は多くの場合斜め読みでした．正直に告白すると，封を開けない月もありました．しかしながら，4年間編集委員に携わり，会誌が多くの方々の時間と努力で作られていることが分かりました．加えて，特集や単発記事も，即時性や社会の流れを踏まえてテーマや執筆者を選んでいることも分かりました．今後は一読者として会誌を読み続けていこうと思います．

最後になりましたが，本会議でより良い会誌を作るために議論させていただいた編集長，編集委員各位，我々からのさまざまな要望に迅速にご対応いただいた事務局各位，そして編集作業を丁寧かつ的確に進めていただいたMWGメンバ各位に御礼申し上げます．どうもありがとうございました．

（西澤　格／日立製作所）

2015年度定時総会の開催について

会長　喜連川　優

2015年度定時総会を下記により開催いたします．総会の案内状は，5月中旬頃に法律上の社員である代表会員の方々にお送りいたします．ご欠席の場合には，必ず委任状をご返送ください．

総会の議事議決権は代表会員の方々が有しますが，もちろん代表会員以外の正会員・名誉会員の皆様も，積極的に総会に出席してご発言いただきますようお願いいたします．

記

日　　時　2015年6月3日（水）15：00～17：30頃
会　　場　学士会館（〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28）
次　　第　1. 2014年度に係る報告
　　2. 新名誉会員の推薦
　　3. 定款の変更および一般規則の改訂
　　4. 新役員の選任
　　5. 2015年度に係る計画（報告）
　　6. 会費滞納会員の取り扱い（報告）
　　7. 表彰（功績賞ほか）

※総会終了後，講演会と交流会を行います．皆さまのご出席をお待ちしております．

照会先　一般社団法人情報処理学会管理部門